

講演

高血圧とコレステロールから心臓を守る

超高齢者が心筋梗塞になっても、早期に心臓の血管をカテーテルで広げる治療(冠動脈インターベンション)を行うと死亡率が約30%から5%程度にまで低下するということを、センターは過去に発表しました。いまでは多くの病院で高齢者にもカテーテル治療が行われるようになりました。また、東京都では救急車のための冠動脈疾患ネットワークが整備されており、東京の高齢者が急性心筋梗塞になっても助かる率は高いのです。

“ひとは血管とともに老いる”と昔から言われていますが、血管の老化すなわち動脈硬化と高血圧や高コレステロールとの関係がわかってきました。高齢者ではどのくらいの数字が良いかという議論がいま、活発に行われています。血管の老化を防止し、心筋梗塞やさまざまな心臓の病気を防止することが健康長寿を達成する一番の方法と考え、最近の話題をご紹介します。

東京都健康長寿医療センター 副院長 原田 和昌

講演

「心不全と闘う心臓外科」

今年2月18日に東大病院で天皇陛下が冠動脈バイパス手術(CABG)をお受けになられたことは皆様の記憶に新しいと存じます。順調な手術後経過で2週間後にはご退院されました。

心臓外科の主な手術は、①CABG ②弁膜症手術 ③先天性心疾患手術 ④胸部大動脈手術 ⑤心臓移植や人工心臓治療などです。心臓外科手術は一年間に日本で5万例前後実施されていますが、その内の2万例がCABGです。成人症例は年々高齢化していてCABGの半数が70歳以上であり、10%が80歳以上症例です。近年、高齢者の30～40%が心臓病で亡くなっていて、高齢者にとっても心臓外科手術の重要性はどんどん大きくなっています。心臓病は適切な治療を行うことによって病魔から逃れ天寿を全うすることが比較的容易な病気です。いろいろな心臓外科手術について私どもの経験をお話したいと思います。

東京都健康長寿医療センター 副院長 許 俊鋭

